



いつものように、私たちの未来は
先祖とともに

普段着のアイヌ

EVERYDAY AINU



出演: 天内重樹 熊谷カネ 瀧口夕美

監督: OKI 撮影・編集: Creekvit, Mario Works 影絵: 川村亘平斎 音楽: OKI 制作: 国立アイヌ民族博物館

国立アイヌ民族博物館(ウポポイ内)1階シアターにて上映中

北海道白老郡白老町若草町2-3-1





いつものように、私たちの未来は先祖とともに

普段着のアイヌ

EVERYDAY AINU



上映時間 30分
【観覧料】入園料に含む

2025年4月26日から国立アイヌ民族博物館で、映画『普段着のアイヌ』(監督:OKI)の上映が始まりました。本作は、トンコリ奏者として国内外で活躍するOKIを監督に迎え制作した、開館以来初のシアター新作映像です。天内重樹の狩猟、熊谷カネの料理、そして瀧口夕美のアイヌ語という主演者それぞれの生きがいをテーマに、今の時代を生きる「普段着のアイヌ」を映し出すドキュメンタリー作品です。



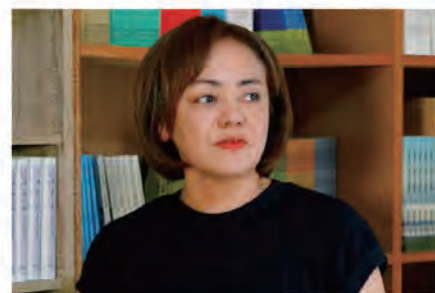
天内重樹 (あまない しげき)

猟師。白糖生まれ白糖育ちの白糖アイヌ。3歳から祖母の古来愛子にっついて歩き、アイヌ古式舞踊や現代に生きるアイヌプリを教わりながら成人になる。祖母亡き後、地元の根本與三郎エカシにアイヌの伝統的鮭漁のマレプ等狩猟を教わり、今は周りの若い衆や自分の子供達に自分が教わった白糖に伝わるアイヌプリを伝えている。



熊谷カネ (くまがい かね)

多くのアイヌが居住していた様似町岡田の出身。両親の岡本総吉、ユミのもと、13人の兄弟の末娘として育つ。舞踊・歌謡、食、刺繍など、母親のユミから強い影響を受け、1960年代より様似アイヌ協会・民族文化保存会で活動し、様似のアイヌ文化伝承活動で中心的な役割を果たす。現在も指導者として活躍している。



瀧口夕美 (たきぐち ゆみ)

出版社編集グループSURE代表。阿寒湖畔のアイヌコタンで育つ。大学卒業後、出版社勤務を経て、2002年、SUREを設立。2005年から習い始めたアイヌ語が自らのアイデンティティのよりどころとなった。2025年、曾祖父が語り残したアイヌ語の物語を書き起こし、「長濱清蔵のアイヌ語 十勝地方の物語」を出版。現在、神戸女子学院大学でアイヌ語を教えている。



監督・音楽:OKI

アイヌと知らずに育ち、20歳を過ぎてから自らの出所を知る。1987年にNYに移住、1993年、帰国中に訪れた故郷の旭川で樺太アイヌの弦楽器トンコリと衝撃的な出会いを果たし、演奏家になることを決意。演奏と楽器製作を独学で習得。同時に音楽制作レーベルChikar Studioを設立、安東ウメ子、Marewrew、Oki Dub Ainu Bandなど数多くのレコード、CDを世に放つ。日本での活動のほかWOMADなど海外音楽フェスにも多数出演している。

休館日 月曜日(祝日または休日の場合は翌日以降の平日)
その他、臨時休館あり※詳しくは国立アイヌ民族博物館ウェブサイトへ

料金 国立アイヌ民族博物館の観覧料は、民族共生象徴空間(ウポポイ)の入場料に含まれます。

●民族共生象徴空間(ウポポイ)入場料(税込)

	個人	年間パスポート
大人	1,200円(960円)	2,000円
高校生	600円(480円)	1,000円
中学生以下		無料

※()は20名以上の団体料金。*障害者とその介護者各1名は無料です。入館の際に証明書等をご提示ください。*入場予約方法や最新の情報は、ウェブサイトからご確認ください。

アクセス 札幌から約1時間、新千歳空港から約40分
●乗用車…白老インターから車で約10分
●電車…JR白老駅から徒歩約10分
電車を利用してウポポイへこ来園の方は、「白老町交流促進バス」のご利用が便利です。



ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

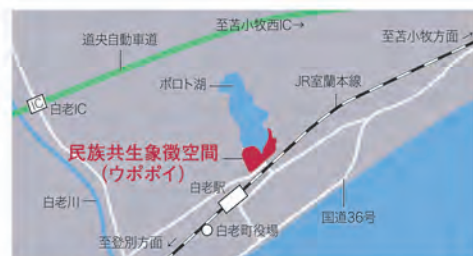
国立アイヌ民族博物館は、民族共生象徴空間(ウポポイ)内にあります。
詳しくは国立アイヌ民族博物館のウェブサイトへ



Creekvit

MOW
MaruMoku

FESN



北海道白老郡白老町若草町2丁目3-1